

自然環境活用部会(第1回)を開催

資料1

▶ 有識者をはじめとする皆様から、特に、観光振興や環境学習に係る自然環境の活用について、ご意見・情報提供を頂くため、第1回目の自然環境活用部会を開催した。

- 日時 = 令和4年12月16日(金) 13:00~15:15
- 開催場所 = 北陸地方整備局(WEB会議併用)
- 事務局 = 国土交通省 北陸地方整備局河川部
- 現地出席者 = 関島恒夫(新潟大学 教授)、藤田美幸(新潟国際情報大学 准教授)、村山敏夫(新潟大学 准教授)、磯貝浩史((公社)新潟県観光協会)、中村茂(株)新潟日報社、山田秀行(新潟市北区観光協会)、増田有貴(上越教育大学教職大学院)
- Web出席者 = 玉木朋人(新潟県商工会連合会 事務局長)、佐藤安男(福島潟みらい連合 事務局長)、細山田得三(長岡科学技術大学 教授)、佐藤巖(瓢湖の白鳥を守る会 事務局長)、鈴木重吉((一社)長岡市緑地協会 代表)、佐渡市、関東地方環境事務所、信濃川河川事務所、信濃川下流河川事務所、阿賀野川河川事務所

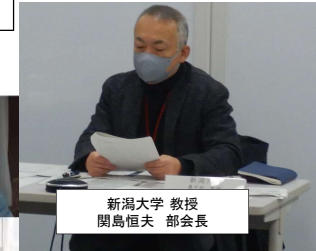
自然環境活用部会

(年2回程度開催、行動計画策定後1回開催)

目的: 指標種をはじめ水辺に係る地域資源を活かした経済の活性化、地域に関することについて検討を行う

<次第>

1. 開会
2. 規約の確認
3. 部会長、副部会長の選任
4. 議事
(1) 自然環境活用部会の進め方について
(2) 越後平野生態系ネットワーク全体構想及び行動計画について
(3) 前回協議会を踏まえた方策案とモデルプロジェクトについて
(4) 環境学習について
・増田氏: 村上市立荒川中学校における環境学習について
・中村委員: 新潟日報社における環境学習について
(5) その他
5. 閉会



議事(3) 前回協議会を踏まえた方策案とモデルプロジェクトについて

- 福島潟の魅力向上に向けたアクティビティ ⇒ 福島潟エコツアーリズム・モニターツアー 晩秋の福島潟くつろぎの時間 実施報告
- 周辺施設との連携
- レンタサイクルの活用



主な意見交換の内容

- ・活動を自走させることを目指し、担い手を発掘が重要。
- ・景色を見ながら、お茶を飲む体験は、地域の人から遠方の観光客まで、地域の魅力を知る重要な切り口になる。
- ・「新体験」、「日常からの脱却」という欲求を満たすコンテンツづくりが重要。
- ・UX(ユーザーエクスペリエンス)デザインの思考も必要。
- ・観光客のバックグラウンドを社会科学的な視点で調査し、ターゲット層に分けて戦略的に進められると良い。藤田委員と山田委員で連携してもらい、解析・アイデア出し等を進めていただければ幸い。
- ・村山委員によるSDGs番組や中村委員の新潟日報社における広報等、皆様との協力の下、進めていきたい。

議事(4) 環境学習について

- 新潟県内小学生・中学生を対象に開催した佐渡1泊2日 環境学習の紹介
- 子どもたちは非常に熱心で、自然学習や体験に飢えている印象を持った。反響良く、来年度も実施予定。



- 環境学習の課題
生態系ネットワークの有機的な結びつきの理解、校外での自然体験学習の機会等
- 今後の連携案
「総合的な学習の時間でフィールドワーク」
「生徒がゼミのように学び合える場づくり」
「地域貢献プロジェクトの環境分野チームの伴走」等



主な意見交換の内容

- ・地域のゼミのような意見交換の場をつくるというのは非常に良い。
- ・地域の学校が繋がるプラットフォームの仕組みづくりの推進が重要。
- ・県や地方、年代をまたいだネットワークの構築や、「ラムサール条約の湿地自治体認証」を通じた海外との連携など、様々な分野でネットワークの拡大を進められると良い。
- ・子どもたちに魅力的な派遣授業を行うのも良い。